

刊行物 Information

1. 日本常民文化研究所

神奈川大学日本常民文化研究所論集 38

歴史と民俗 38

平凡社（2022年2月18日発行）

特集 景観の総合資料学

【解題】特集「景観の総合資料学」（安室知）

採石場の景観変化——高度経済成長期の石材需要と新技術の導入

（松田睦彦）

北山林業と民家の庭——京都市中川地区における文化的景観調査から

（恵谷浩子）

消費から漁撈を考える——琵琶湖のフナズシの洗練化をめぐる（橋本道範）

エリの造形と分布——明治一七年「鰯税取調帳」から読む琵琶湖漁業の歴史（安室知）

津波の跡地と景観——宮城県気仙沼市大島の災害危険区域の事例から（小野寺佑紀）

漁撈活動からみたヤマアテの初源——絵図なき漁場図、の遡及的検討（太田原潤）

小特集 人々の境界と越境

日本の植民地統治における国籍と戸籍——「日本人」の創出と支配（遠藤正敬）

「在日」と「日本人」——「溝と壁」の越境は可能か（柳赫秀）

海を渡った「娘^{じようし}子軍」——北満に映し出された近代日本の光と影（山本志乃）

越境する〈周縁〉の人びと——徳之島南米移民を事例に（加藤里織）



民具マンスリー

54巻1号（2021年4月10日発行）

シイラ漬漁の大絵図——モノなき漁法へのアプローチ——（山本志乃）

松本市立博物館の歴史と収蔵民具——重要有形民俗文化財を中心に——

（武井成実）

54巻2号（2021年5月10日発行）

子供の誕生にともなう絵馬奉納習俗——奈良県における分布と特徴——

（上）（浅井裕登）

貴州省黔东南ミャオ族の蠟染と藍染の様相（龍瑞月）

54巻3号（2021年6月10日発行）

二つの中世陵王面——鎌倉鶴岡八幡宮と六浦瀬戸神社—— 上（渡邊浩貴）

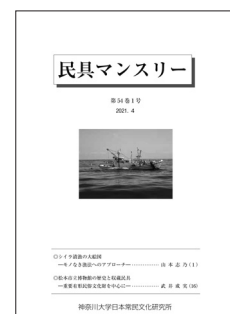
民具動態保存論（狭川真一）

【民具短信】山形県西置賜郡白鷹町の「半唐箕」（守谷英一）

54巻4号（2021年7月10日発行）

座談会 日常へのまなざし——トイレを語る——（『民具マンスリー』編集室）

【民具短信】忘れ去られた民間信仰の再発見（松下朋生）



54 巻 5 号 (2021 年 8 月 10 日発行)

用材から考える榎摺臼の機能評価 (桃井宏和・高橋敦・久保光徳)

竹のミキノクチ——神奈川・東京・埼玉—— (山本亮子)

【書籍紹介】『読む絵本 思い出のなかのおらーほー ——昭和前期の元狹山村のくらし——』(米村創)

54 巻 6 号 (2021 年 9 月 10 日発行)

町会の成員にとって神輿とは何か——東京圏の町神輿に注目して—— (三隅貴史)

【民具短信】

新潟県胎内市中村浜の七夕飾り (三国信一)

赤飯贈答容器・エジュウとダイカイの神奈川県酒匂川東岸の分布について (保坂匠)

54 巻 7 号 (2021 年 10 月 10 日発行)

固定式刺し網漁の漁具誌——福島県新地町の操業現場から—— (川島秀一)

加古川の川舟三例——新部の渡し「太閤丸」を中心に—— (山本原也)

54 巻 8 号 (2021 年 11 月 10 日発行)

コロナ禍におけるアマビエの流行——続・しづかアマビエの展開—— (市東真一)

楽器の演奏による野生動物の行動管理——奈良公園における鹿寄せを事例に—— (下) (東城義則)

54 巻 9 号 (2021 年 12 月 10 日発行)

台湾の原住民族アミに受け継がれる神棚 (岡田紅理子)

近代琵琶湖の堅笠 前編 (渡部圭一)

【書籍紹介】鷹取ゆう著『ただいま収蔵品整理中！——学芸員さんの細かすぎる日常』(三村宜敬)

54 巻 10 号 (2022 年 1 月 10 日発行)

昭和 30 年代 木を割る技術と民具——富山県南砺市刀利・立野脇を中心として (加藤享子)

アチック・ミュージアムの民具コレクション 連載再開にあたって (飯田卓)

アチック・ミュージアムの民具コレクション³⁹ 樋畑雪湖の妻楊枝コレクション (六) (木村裕樹)

【民具短信】

戦時下における泥棒除けの松川達磨 (渡邊直登)

麦殿大明神は語る——疫病との共生—— (八木つきの)

54 巻 11 号 (2022 年 2 月 10 日発行)

玩具・ビデオゲームの展示——愛荘町立歴史文化博物館の夏季特別展から—— (西連寺匠)

戦後沖縄の石敢當受容 (蔣明超)

【書籍紹介】加藤和徳著『農具「唐箕」の伝播——羽前上ノ山と旧中川村の事例——』(佐々木長生)

54 巻 12 号 (2022 年 3 月 10 日発行)

家庭への電灯の普及について (野々村明佳里)

【民具短信】

企画展「布 うつくしき日本の手仕事」を終えて (刈田均)

特許から見る鳥取倉吉の「千歯」から「太一車」産業への変遷 (北村隆雄)

第 54 巻総目次

日本常民文化研究所 2021 年度活動報告より

布 うつくしき日本の手仕事

神奈川大学日本常民文化研究所／横浜市歴史博物館 編集
公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団（2021年7月17日発行）

本書は、神奈川大学日本常民文化研究所と横浜市ふるさと歴史財団とが共同開催した展覧会「布 うつくしき日本の手仕事」（会場：横浜市歴史博物館／期間：2021年7月17日～9月20日）の展示図録である。手仕事の作品を中心とした写真と、論考9編が掲載されている。

I うつくしき手仕事

こぎん

菱刺（ひしぎし）

アイヌ文様

庄内・会津の刺子

大麻布の型染

裂織（さきおり）

襦袢（はろ）

II 手仕事の布

大麻布（たいまふ）

草皮布（そうひふ）

下北半島のアイヌの布

櫛布（しなふ）

ぜんまい織

紙布（しふ）

編衣（あんぎん）

太布（たふ）

葛布（くずふ）

芭蕉布（ばしょうふ）

論考

“モノ”語り——民芸品と民具の今日——

（佐野賢治）

衣服の禁忌とまじない——縫う・着る・洗う——

（常光徹）

津軽のこぎん刺しと南部の菱刺し

（昆政明）

津軽藩在方の衣服事情（刈田均）

アサと中世遺構——東北地方北部における

中世の繊維生産関連遺構について——

（太田原潤）

会津の布文化

——風土に生きるモノと心の芸術——

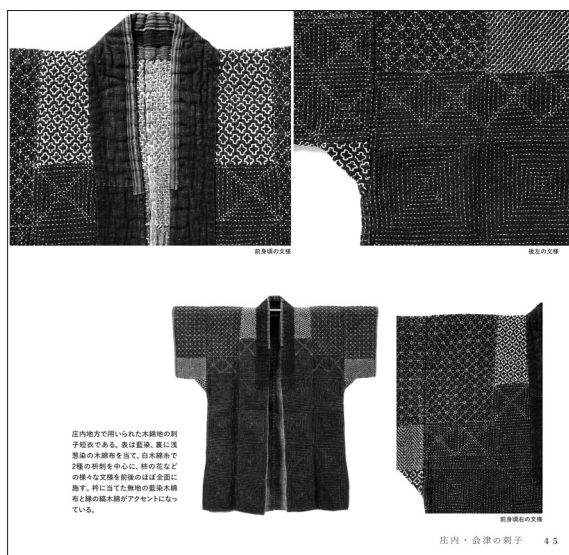
（佐々木長生）

原始布・古代織の過去、現在そして未来

（山村幸夫）

太布（大沢善和）

自然布の特性と衣服の機能性（小野健太）



神奈川大学日本常民文化研究所調査報告 第30集
 ブラジル国サンパウロ州レジストロ植民地における
 民具からみた日本移民の生活史の研究
 (2022年3月15日発行)

レジストロ植民地に残る民具について集約的な調査をおこない、民具記録を
 基点に、ブラジル各地の日本人移住地にある史料館が収蔵している民具の総括
 的な比較研究への足掛りを確立することが本研究の目的である。本書は、論考6
 編とポルトガル語の共同研究フォーラム発表原稿6編の論考で構成されている。



はじめに——農業植民による地方都市づくりの一事例——（福澤一興）

第1部 論考（日本語）

ブラジル国レジストロにおける日本移民の半世紀——農業の視点から——（福澤一興）

レジストロ植民地での移民家屋における先住民の影響およびブラジル日系初期移住地との比較

（脇岡明美 岡アルナルド正人 訳）

清水家のブラジルでの冒険物語——ブラジルにおける96年——

（清水ルーベンス武 野口アリジア真理子 訳）

レジストロ日本移民史料館の可能性（研究ノート）

——再開館に向けた取り組みについての試論——（永井美穂）

農と移民の環境史——20世紀ブラジル都市近郊農村における日本移民農業の事例研究——（吉村竜）

シャー・ツビー——勃興期レジストロ茶業の光と影——（泉水英計）

第2部 論考／神奈川大学 国際常民文化研究機構 第9回共同研究フォーラム

「ブラジル国サンパウロ州レジストロ植民地における日本移民の生活史」発表原稿（ポルトガル語）

Meio Século na Colônia Registro do Estado de São Paulo, Brasil:

Do Ponto de Vista da Agricultura (FUKUZAWA Kazuoki Traduzido por Arnaldo Massato OKA)

A Influência dos Povos Tradicionais na Moradia dos Imigrantes Japoneses da

Colônia de Registro em Comparação com Outras Áreas de Colonização Japonesa

no Brasil (HIJIOKA Akemi)

Os Desafios da Família Shimizu no Brasil: 96 Anos no Brasil (SHIMIZU Rubens Takeshi)

As Possibilidades do Memorial da Imigração Japonesa no Vale do Ribeira:

Um Pensamento para Seu Reabertura (NAGAI Miho Traduzido por Arnaldo Massato OKA)

Assentamento de Imigrantes Japoneses Visto pela Agricultura (YOSHIMURA Ryu Traduzido por Arnaldo

Massato OKA)

A Colônia Registro que Emerge das Bibliografias:

A Luz e as Sombras do Núcleo Colonial Supervisionado pelo Governo Japonês

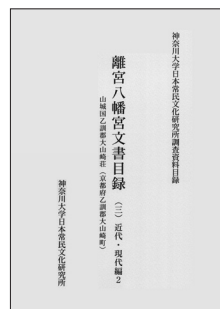
Vistas pelo Caso da Sociedade de Produtores Chá Tupi

(SENSUI Hidekazu Traduzido por Arnaldo Massato OKA)

あとがき（泉水英計）

神奈川大学日本常民文化研究所 調査資料目録
 離宮八幡宮文書目録（三）近代・現代編2
 (2022年3月25日発行)

1995年から行われた京都府大山崎地域での調査において本研究所では
 文書目録を各種刊行している。本書は、既刊『離宮八幡宮文書目録（二）
 近代・現代編1』（2020年3月刊）に続き、その目録取り作業を終えた近
 現代文書についてまとめた目録である。



神奈川大学日本常民文化研究所 年報 2020

(2022 年 3 月 3 日発行)

第Ⅰ部 研究活動報告

日本常民文化研究所

A. 基幹共同研究「常民生活誌に関する総合的研究」

“日常茶飯”——日本人は何を食べてきたか——予備的研究（佐野賢治）

布の製作と利用に関する総合的研究（昆政明）

便所の歴史・民俗に関する総合的研究（須崎文代）

B. 基盤共同研究

日本常民文化研究所所蔵資料からみるフィールド・サイエンスの史的展開
（泉水英計）

二神家・二神島の歴史・民俗研究（前田禎彦）

海域・海村の景観史に関する総合的研究（安室知）

C. 個別共同研究

ポルト屏風下張り文書等の予備的研究（関口博巨）

歴史民俗資料とデジタルファブリケーションの可能性の研究（関口博巨）

研究拠点 気仙沼大島漁協文庫の管理と活用（窪田涼子）

受託研究 国立研究開発法人水産研究・教育機構 所蔵古文書の目録作成業務（越智信也）

受託研究 三宅村郷土資料公開・保存事業（越智信也）

民具マンスリー（角南聡一郎）

資料委員会（関口博巨）

日本常民文化研究所展示室 収蔵資料展示「アチックの出版 1934～1945」（窪田涼子）

神奈川大学デジタルアーカイブ リニューアル（後田多敦）

日本常民文化研究所 SNS・YouTube チャンネル開設（平井誠）

創立 100 周年記念事業（安室知）

第 3 回 東北アジア海域と人文ネットワーク国際学術大会（安室知）

——東北アジア海域の人文ネットワークの現代的再編——

国際常民文化研究機構

共同研究（一般）台湾の「海女（ハイルー）」に関する民族誌的研究（藤川美代子）

——東アジア・環太平洋地域の海女研究構築を目指して——

共同研究（奨励）ブラジル国サンパウロ州レジストロ植民地における

民具からみた日本移民の生活史の研究（福澤一興）

第Ⅱ部 成果発信

常民文化研究講座

景観の総合資料学——漁場図を読む 2——（安室知）

古文書修復実習（関口博巨）

民具を語る（角南聡一郎）

共同研究 ブラジル日本人入植地の歴史民俗学的研究（泉水英計）

国際常民文化研究機構 共同研究フォーラム

共同研究（一般）民具の機能分析に関する基礎的研究（神野善治）

共同研究（奨励）熊野水軍小山家文書の総合的研究（坂本亮太）

KU ポートスクエア 神奈川大学みなとみらいエクステンションセンター

神奈川大学日本常民文化研究所主催講座

神奈川大学日本常民文化研究所研究会

第Ⅲ部 活動記録

刊行物 Information 2020 年度の活動 刊行物等の寄贈・交換 組織 規則・規程



2. 国際常民文化研究機構

国際常民文化研究叢書 15

台湾の「海女（ハイラー）」に関する民族誌的研究

東アジア・環太平洋地域の海女研究構築を目指して

(2022年3月15日発行)

本共同研究が目指すのは、台湾で「海女（ハイラー）」と呼ばれる女性たちとその暮らしである。東アジアあるいは環太平洋島嶼部全体を射程に入れた新たな形の「アマ研究」模索のための足がかりを掴むことを目指した。本誌は、民族誌篇11編、特別寄稿篇7編、写真篇1編で構成されている。また、附録として記録映像の解説が掲載されている。



共同研究の経緯（研究代表者 藤川美代子）

民族誌篇

序（藤川美代子）

台湾の「海女」とは誰なのか（藤川美代子）

なにが台湾の「海女」を沖へと押し出したのか？

——日本統治期初期のテングサ資源をめぐる葛藤と新秩序の形成から——（新垣夢乃）

台湾東北角における海藻の民俗分類と自然環境に対する人々の認識

（許翠庭 楊毓瑩 訳 新垣夢乃・藤川美代子 監訳）

台湾・東北角の海人（アマ）の漁撈行動と海洋資源をめぐる考察

——台・日・韓の潜水採藻漁における漁場利用と漁場政策の対照比較——（齋藤典子）

台湾東北角の海女が採集する海藻と貝の種類と採集方法

（許焜山 楊毓瑩 訳 新垣夢乃・藤川美代子 監訳）

台湾東北角の海女が用いる海藻採集のための装備と道具

（許焜山・沈得隆 楊毓瑩 訳 新垣夢乃・藤川美代子 監訳）

海藻を加工する（沈得隆 楊毓瑩 訳 新垣夢乃・藤川美代子 監訳）

海藻の食べ方と調理方法（藍紹芸・許翠庭 楊毓瑩 訳 新垣夢乃・藤川美代子 監訳）

「よい石花菜」とは何か

——台湾東北角における Gelidiaceae の採集・加工・売買をめぐる民族誌的研究——（藤川美代子）

台湾東北角に住む一人の海女と男性採藻漁民家族のオーラルヒストリー（齋藤典子）

特別寄稿

「海女」の誕生——海村における女性労働の視点から——（安室知）

【『東北風』再録】

龍洞、貢寮の海女の初訪問（沈得隆）

日本の研究者との台湾海女訪問記（沈得隆）

沖縄フィールドワークの旅（2019年3月4-7日）（許焜山）

日本の研究者とともに龍洞の海女を訪ねる（2019年3月25-29日）（沈得隆）

2019年澳底の海女訪問記（沈得隆）

日本伊豆半島須崎地区の海女訪問記（許焜山）

写真篇

台湾東北角の石花菜採集をとりまく人々と調査風景（新垣夢乃・藤川美代子）

附録

記録映像『去海拿東西的人（海に行きものをとる人）

～台湾東北角の「海女（ハイラー）」とテングサ漁～』（新垣夢乃・藤川美代子）

3. 非文字資料研究センター

神奈川大学評論ブックレット 41

国策紙芝居——地域への視点・植民地の経験

大串潤児編 御茶の水書房（2022年3月18日発行）

失われた「国策紙芝居」を可能なかぎり発掘し、作品それ自体の意味や、紙芝居にかかわった人びとの姿を明らかにすること。さらに人びとの記憶のなかでもモヤがかかっているようにみえる「戦争と紙芝居」についての全体像を明らかにし、戦争下民衆のすがたを照らし出すこと。こうした問題を考えることがねらいである。

第一章 紙芝居研究のおもしろさとは何だろうか？

——方法的エッセイ

I 紙芝居共同研究の根もとにあるもの（安田常雄）

II 国策紙芝居のなかの漫画——近藤日出造と横山隆一をめぐって（富澤達三）

第二章 地域のなかの紙芝居

——調査で出逢った人びと

第一節 地域でどのように紙芝居と出逢ったか

——私たちの調査報告と地域史研究

I 北海道へのまなざし（大串潤児）

II みなかみ町猿ヶ京「民話と紙芝居の家」（原田広）

III 残すことと活かすこと——信州（鈴木一史）

IV 人形劇の図書館——滋賀大津（新垣夢乃）

V 福岡——初めて地域に向かい合う（安田常雄）

VI 地域で紙芝居に出逢うということ（大串潤児）

第二節 紙芝居につらなる人びと——地域からの発信

I 一九四〇年代、戦時下のなかの遺愛学院（福島基輝）

II 浦上喜平・学童集団疎開・紙芝居（北原勤）

III 愛荘町 信光寺 紙芝居（小川亜希子）

IV 残された紙芝居と神奈川大学非文字資料研究センター——但馬出石の紙芝居（川見章夫）

第三章 植民地や海外で紙芝居はどのように行われていたか——研究交流のあしあと

I 台湾に紙芝居を探して——台南・宜蘭・台北・南投 二〇一五～二〇一六（安田常雄・松本和樹・鈴木一史・小山亮）

II 台湾における紙芝居研究への関心（邱昱翔）

III 韓国における植民地朝鮮紙芝居研究（權稀珠）

紙芝居地域調査の記録（2015年～2021年）



『チョコレートと兵隊』（日本教育紙芝居協会、1941年）。この作品は群馬県桐生市の実話に基づいている。日本教育紙芝居協会発足当初からの“名作”と言われた。1938年11月に映画化され（東宝、監督・佐藤武、出演・藤原釜足、澤村貞子、高峰秀子など）、また同名でレコード化もされた（1939年、テイテック：門田ゆたか作詞、コロムビア：サトウハチロー作詞）



『空の軍神 加藤少将』（日本教育紙芝居協会、1943年）。太平洋戦争初期、加藤隼戦闘隊隊長として、一式戦闘機「隼」で活躍した陸軍航空部隊を代表するパイロット・加藤建夫中佐（死後少将）の伝記。加藤は旭川出身

「非文字資料研究」23

(2021年9月30日発行)

虫を育て、闘わせる技法

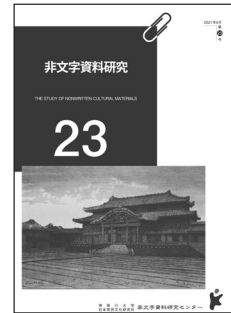
——鹿児島県始良市旧加治木町地域におけるクモ合戦の事例から——

(小林兆太)

首里城正殿大龍柱の向きの検討

——近代における大龍柱「改変」史から—— (後田多敦)

ジュール・ルヴェルトガ「1877年の琉球諸島紀行」(熊谷謙介)



「非文字資料研究」24

(2022年3月20日発行)

モデルネからアヴァンギャルドへ

——カバレット「11人の死刑執行人」と若者たちの企て—— (小松原由理)

近代沖縄神社神道史における御嶽・拝所の神社化の背景 (前田孝和)

再建と再会：学術用語「民具」の中国民俗学界への紹介をめぐる (余璋)

表象としての鳥居——ブラジル・サンパウロを事例に—— (加藤里織)

現代ブラジル日系果樹園の作物栽培における知識の獲得と技術共有 (吉村竜)

広東神社考 (鍾剣峰 訳 成田紅音)



「非文字資料研究センター」 News Letter No. 46

(2021年9月30日発行)

研究会報告

租界・居留地班 第69回研究会

租界と外国駐屯軍——横浜・漢口・天津—— (櫻井良樹)

「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社班 2021年度研究会

沖縄神社の創建とその後 (上田由美)

研究調査報告

国策紙芝居——長野県御代田町・栃木県小山市調査 (大串潤児)

国策紙芝居——川越市立博物館調査 (原田広)

ギルマール写真と伊藤勝一収集首里城正殿写真 (後田多敦)

研究エッセイ

削られた／埋められた銘文——石造物の痕跡から読み取れること—— (角南聡一郎)

資料紹介

「高木幹朗研究室スライドフィルム」について

——高木幹朗研究室スライドフィルムが捉えた1970年代の横浜臨海部の景観と現在の変貌——

(松本和樹)

連載 中国絵はがきコレクション紹介⑨ 非文字資料研究センター所蔵

戦前中国の風俗絵はがきの世界 (近藤恒弘氏 寄贈) 満洲国に於ける農民の生活 其二 (孫安石)

連載 戦時下日本の国策紙芝居研究報告

戦意高揚紙芝居コレクションにみる戦時下用語

「登場人物編」その3 ——現代(昭和前期)後編—— (原田広)



「非文字資料研究センター」 News Letter No. 47

(2022 年 3 月 20 日発行)



研究会報告

租界・居留地班 第 73 回研究会

炭鉱都市撫順から見た満鉄の住宅地計画（包慕萍）

「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社班 2021 年度研究会

「普天間宮、斎場神社、北山神社、宮古神社、八重山神社の県社化
——昭和 18 年の沖縄県神社創立計画案を手掛かりに」（加藤里織）

研究調査報告

新作組踊「塩売」——「新作」から「組踊」を考える（後田多敦）

研究エッセイ

日記にみる農家の「市稼ぎ」（山本志乃）

タコと紙芝居とテングサと（新垣夢乃）

資料紹介

「高木幹朗研究室スライドフィルム」について——新山下と堀割川の景観——（松本和樹）

連載 戦時下日本の国策紙芝居研究報告

戦意高揚紙芝居コレクションにみる戦時下用語

「登場人物編」その 4 ——近代（明治・大正）前編——（原田広）

近藤久義さんを追悼する（大里浩秋）

近藤久義さんの思い出と資料（孫安石）